



様式第4号（第7条関係）

令和8年 7月10日

東かがわ市議会議長

工 藤 正 和 様

東かがわ市議会議員

（会派・個人・その他）

氏名 渡 邊 堅 次

行政視察等報告書

1	日 時	令和8年7月3日	
2	参加者	渡邊 堅次、 小松 千樹	
3	目的等	内 容	場 所
		第13回「震災対策技術展」大阪 〈受講セミナー〉 1.～大地震などの災害時・通信障害を克服！～ 2.自治体、学校、企業と取り組む様々な防災教育・防災啓発事業について	大阪府大阪市 (マイドームおおさか)
4	研修・調査内容	別紙参照	
5	研修成果	別紙参照	
6	費 用	9, 8 6 0 円	

※領収書(交通費・宿泊費の明細が分かるもの)、研修資料を添付してください。

研修・調査内容

第13回 自然災害対策技術展「震災対策技術展」大阪

本格的な地震の活動期に入ったと言われる我が国では、南海トラフ地震や首都直下型地震と、大規模地震の発生が懸念される中、2024年元旦に発生した「能登半島地震」により、地震対策の重要性を国・地方自治体・民間企業のみならず、社会全体として取り組む課題になっている。さらに、2026年11月に予定されている防災庁の設立に向け防災・減災対策を一層推進すべき重要な時期になる。また近年は台風や豪雨による甚大な被害が発生する等、地震対策のみならず気象災害対策も含めた防災対策の強化が求められている。そのようなことから地震対策をはじめ、近年巨大化している台風やゲリラ豪雨による水害や土砂災害、火山、津波といったあらゆる自然災害の脅威に対し、強い社会の構築を目指し、1997年以降毎年開催している最新の自然災害対策製品・技術・サービスが一堂に会する「震災対策技術展」を研修にすることにした。

① セミナー

テーマ「大地震などの災害時・通信障害を克服」

講師 テレネット株式会社西日本営業部グループ長防災士

久保 誠司 氏

日常から使える防災機能ワンパッケージ無線機公共安全対応型
緊急災害用無線機ハザードトークの商品説明があった。

② セミナー

テーマ「自治体、学校、企業と取り組む様々な防災教育・防災啓発事業」

講師 NPO 法人プラス・アーツ理事長

永田 宏和 氏

【全国の地域防災における課題】

防災訓練において、集客できない課題や担い手不足、組織の孤立化が大きな問題になっている。解決策として、地域にいる若い世代（大学生・高校生・中学生）の防災訓練への参画事例などの説明があった。

また「イザ！カエルキャラバン！」の導入によって変わるコミュニティ防災の未来像の取組事例の説明を受けた。

プラス・アーツの今後の重点課題としては、

- オールジャパンでの防災教育・防災啓発を推進する。
- 特に、防災教育分野の若い担い手育成に積極的に取り組む。
- 危機的状況の自主防災組織の支援を行いつつ、地域のゆるやかな防災コミュニティ「防災部」の輪を全国に広げる。
- 日本の国際協力の分野としてニーズの高い海外での防災教育支援の輪を広げる。

研修成果

かねてより、本市においての防災教育や防災訓練などに疑問を感じていたが、「震災対策技術展」に参加して、「カエルキャラバン」などの取組事例の説明を受け、目指す方向性のヒントを得た。また、緊急災害用無線機では、更新時に同じメーカーと随意契約するのではなく、常に最新の緊急災害用防災無線機の調査を行うことが必要と感じた。

各自治体の関係職員も多く参加しており、災害に対しての真剣さを感じた。もう既に最先端の機器を購入している自治体の紹介もあった。本市職員も今後このような催しに参加することに期待したい。セミナーも含めて実のある研修であった。